

「地域の必要に仕える教会」

— 「宣教」と「奉仕」は常に一つ —

2021.5.18 札幌キリスト教連合会にて

I. 札幌豊平教会のルーツをたずねて

北海道とは、札幌とは

【概要】

- ・札幌開拓は、“官製開発” 国内貧困対策としての移民奨励・対露軍事政策・アイヌ同化政策の一環。
- ・あふれかえった生活困窮者は豊平川周辺に。官製貧困と私的福祉の交錯するところが豊平であった。

1869 m2 年 「開拓使」を札幌に設置。積極的な官募移民の開始。直ちに貧困化→豊平川岸に集落が形成される

1875 m7 年 その後「屯田兵制度」創設、札幌郊外琴似兵村・山鼻等

1882m15 年 樺戸集治監(権力大)・1890m23 年釧路集治監から網走に 1392 名を道路開削目的で送致、その他各地に集治監開設。(1930 年代からは、徴用等の朝鮮・中国人労働者)。鉄道・道路・隧道・電源開発での使役、炭鉱・鉱山労働への従事、生活手段喪失のアイヌ人を雇用

明治維新の政治犯(長期)

1896 m29 年 「陸軍第 7 師団」が月寒に発足。1902 年旭川へ本部は移転。陸軍第 7 師団は、道民に『北鎮部隊』と畏敬されたと言う。1904m38 年日露戦争に派遣、その後各地に派遣され、1945 年樺太真岡派遣が最後。

*明治天皇が「第しち師団」と呼んだことから、これが正式名称となった

1918 t7 年 小樽と札幌中島公園で「北海道開道 50 周年記念博覧会」この時、遊郭の存在を外国人の目から隠すために薄野から川向うの菊水(豊平教会から数百メートルのところ)に引っ越し。交通網整備(鉄道馬車から電車に移行のきっかけ)・金融機関・企業誘致が盛んになった。

1924 t13 年 鉄橋(豊平橋)の完成

追加

北海道開発のもう一つの動機：国際世論の批判をかむすために、アイヌ民族は日本民族の一部であり、日本には先住民に対する迫害・差別は存在しないと偽装するため、アイヌ文化・生活の強制的に捨てさせる政策であった。1871m4 よりアイヌ民族同化(和人化)政策と和人移民政策を推進。諸風習・鮭・鹿の狩猟禁止・日本語教育等。1899m32 旧土人法制定へ。

札幌における貧困に対する取り組み

【概要】

- ・札幌開拓民の貧困化—「東日本最大の貧民街」という人もある。これに対する対応は、もっぱら市井の人から起こされた。その基点はどこに？
精神的には「キリスト者の取り組み」によって、思想や情熱が吹き込まれた。
社会環境としては「流されない鉄橋(豊平橋)の完成」によって、人の往来が容易なものとなった。

1894 m27 年 豊平川の街側に、遠友夜学校開校(萬里子〈メリー〉・新渡戸稲造)就学できない児童に教育を。体育と思いやりを重視。ボランティアによって運営され、札幌におけるボラ活動の原点と言える(私見)。

1906 m39 年 常設橋のない豊平川の対岸、豊平 6 番地(貧民窟・乞食長屋と呼ばれた)で日曜学校開設(宣教師サラ・スミス)

札幌豊平教会の淵源。街に住む生活者にはではないところに、福音の種が蒔かれた。

四条日曜学校と呼ばれ、200人の子どもが集っていたとの記録もあり。(スミスは、1987m19年スミス女学校創設。その19年後に豊平に日曜学校を開始)。

その後、 鉄製の豊平橋の完成(1924 t13年)

その前後に様々な社会活動が起こされている。全て私的な営み。

鉄製の豊平橋完成 この頃から豊平は私的な社会福祉活動がますます盛んになる。新渡戸やスミスの行動を通して、信仰に基づく思想や情熱がこの地域には注ぎこまれた影響が現れているのではないか。

☆札幌保育園(1922t11 大石スク)

☆低家賃住宅長屋30戸(1923t12 岩井鉄之助)、2階建ての愛隣館という公会堂、後に無料宿泊所に(1925t14 岩井鉄之助)

☆授産事業(雑品回収、リンゴの袋貼り等)

☆未就学児への給食(戸津高知)

☆無料診療所(愛隣会:北一条教会長老はじめ豊平教会信徒らキリスト者の働き)

☆やよい児童会館(豊平地区婦人部による建設運営) これらすべては、私財投入・民間の寄付により運営された。

II. 札幌豊平教会の出発点を確認する

・豊平教会では、2016年の「宣教師サラ・スミスによる伝道開始110周年」を意識して、その前年から、宣教師サラ・スミスの信仰に学ぶ。

- スミス宣教師の特質は、(1)「信仰」→御言葉を聞くだけでなく、御言葉を生きる信仰
(2)「情熱」→常設橋のない豊平川を渡って、街から敢えて“別世界”に踏み入る
(3)「現場主義」→教室から飛び出して生徒を連れての“現場”教育

・2016年度教会総会での確認—スミス宣教師が蒔いた種の再確認

2016年度主題聖句 『御言葉を行う人になりなさい。…』(ヤコブ1:22~27)

2016年度 主題 “他者と共に、他者のために” を決める。

その際に、次のことを約束した。

- *議論のための議論は、もうやめる。「見通しが開かれていないから、良く考え尽くしてからにしよう」などと、会議室に閉じ籠った思索はやめる。
- *会議は、「御言葉を生きるため」。行動は「神の御業がこの地に現れるため」。御言葉を生きるために祈り、話し合い、行動すること。そして御言葉に導かれた内省(悔い改め)を行なうことを確認。
- *「やれない理由」「やらない理由」を見つけては行動しないというあり方を厳しく戒める。賜った1タラントンを地に埋めるな。与った恵みを、感謝をもって用い生かそう。

Ⅲ. 日曜学校の方針転換（2016年2月）『教える日曜学校から、仕える日曜学校へ』

- ・従来型の日曜学校を残しつつ、地域社会をフィールドとして地域の子どもの必要に仕える取組みへ
- ・地域社会に仕える「子ども食堂」の開設準備を決定（日曜学校教師会）、
- ・学校給食の無い土曜日曜を過ごし、栄養状態の悪い月曜の朝に、月に1度開設。2016年6月27日（月）朝7:000 オープン。ワーキングプアの青年たちも招きたい。

Ⅳ. いわゆる「子ども食堂」等の開設における課題

- ・課題1（人）：教会内に「担い手がない」→教会員以外の方々との共同の取り組みとする。始めは、ほぼ全員が市民ボランティア。今でも8割は市民・2割が教会員。
- ・課題2（場所）：会堂を市民に開放したくない（？）“聖なる空間”の独占意識→“献堂”の意味の再確認。すべての民が集い、御心が表される「場」としての教会理解。
- ・課題3（資金）：無しで良い。0から始める。御心を行うために「財布は持ち歩かない」（ルカ9：3）。

課題1～3がクリアできても、教会（信仰者）には、常に課題がある。

- ・課題4（自己変革）：「御言葉に従って常に自己変革されること」という課題—「現場」が自己を照らし出す。

ヤコブ1：23（新共同訳p422）『御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。』（鏡＝当時の鏡はおぼろげにしか映らないので、はっきりと自己認識することができない）。

この取組みを、単なる社会改善の取組みとは捉えないで、神の公正をこの地上に実現する取組みであり、この取組みを通して自己自身を、み言葉によって問い直す取組みとする。

*札幌豊平教会では、「子ども食堂」という名称を使わずに来ています。いわゆる「子ども食堂」がマスコミで報道され始めた頃、これを「貧困対策」として取り上げたことから、「子ども食堂」という看板を掲げたところは敬遠されがちでした。子どもたちは、クラスメートに知られたらいじめにあうことを懸念し、親のプライドとして子どもに行かせたくないと思うのでした。

そこで、札幌豊平教会では、「隠れ子ども食堂」として、「夏休み、宿題やろうぜ!」「天使食堂」「朝ごはん、一緒に食べるとなおいしい」「とよひら食堂」など、対象者を限定する名称は用いません。

最近では、多くの「子ども食堂」が誰をも迎える地域食堂としての性格を鮮明にするようになったので、「子ども食堂」の看板のもとでも気軽に訪れることができるようになりました。

V. 「とよひら食堂」開設に際して、考えたこと。

金曜日の「とよひら食堂」は、いわゆる「炊き出し」ではなく、家庭の食卓を用意することです。

- ・人間の尊厳を表す（毎週、食卓には花を飾ってゲストを迎える）
- ・家庭の食事に近づける（陶器の食器・小さめの茶碗で御替りをしていただく）
- ・「路上生活者」専用食堂とはしない。すべての人に開かれた食堂として運営。それは差別の再生産を行わないために大事なこと。「分断」「区別」を基調とした文化ではなく、「多様性」と「調和」を基調とした地域文化を創る働きに用いられたい。

- 豊平教会のすべての食堂は、**安心できる・くつろげる居場所となる**ことを目指す。
- 豊平教会のすべての食堂は、ボランティアにもゲストにも人材の**多様性を豊かに受け入れる**。
- 豊平教会のすべての食堂は、**完全無料！** 神の賜物（空気・水・大地・食糧）を分かち合うことで、金銭の授受を行わない。献金は歓迎です。食堂を利用する方のカンパ（運営協力金）をささげる方もあり。
- 豊平教会のすべての食堂は、基本的には、調理側（提供者）とゲスト（受け手）の区別を越える試みを持つ。調理者も一緒に食べること。カボチャ種蒔き等の共同作業を行う。可能なところで、**共同作業と対等な相互関係の構築を心がける**。
- すべての者が（食べるために来る人も含めて）、**自分のできることをして他者に仕える仕組みを作る事を心がける**。
- 全人的・継続的関わり模索する（身寄りのない方々の葬儀・埋骨を行う）。
- 他者と現場を通して、**社会ばかりか、御言葉を生きる自己を見つめる場とする（教理を着地させる信仰的訓練の“場”）**。

○祈り：主よ我らを、御心をあらわす器としてお用いください。主よ、そのために、己を捨てる戦いに聖霊の御力を注ぎ、捨て去るべきものを焼き尽くして下さい。ただ御心を携えて隣人に仕える者とさせて下さい。

VI. 聖書に聞く

—「居場所作りの食堂」や「弁当のお渡し」を生み出す聖書の言葉—

●イエスの宣教命令（マタイ 28：16～20）新共同訳 p60

さて、11人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄ってきて言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは言って、すべての民を私の弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたすべてのことを守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

宣教を考えると私どもは、「主イエスの宣教命令」呼ばれる記事を思い浮かべる。そして教会はこの記事によって、教会の使命は宣教（伝道）にあることを確認してきた。

しかし、主イエスから戴いた御命令であるとしてきたこの言葉が、真正に主イエスの言葉であるのか、実は疑わしい（と私は思う）。「父と子と聖霊の名によって洗礼を授ける…」というのは、後の時代の教会が生み出した定式である。とすれば、この記事は後の教会がマタイ福音書に加筆したもの、とするのが自然であろう（と私は考える）。

宣教を考えるのであれば、主イエスご自身はどの様にして、宣教をなさったのか。それを尋ねたい。

●12弟子の派遣（ルカ 9：1～6）新共同訳 p121

イエスは12人を呼び集め、あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気を癒す力と権能をお授けになった。そして、神の国を宣べ伝え、病人をいやすために遣わすにあたり、次のように言われた。「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も2枚は持ってはならない。どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。だれもあなたを迎え入れないなら、その町を出ていくとき、彼らへの証しとして足についた埃を払い落としなさい。」12人は出かけて行き、村から村へと巡り歩きながら、いたるところで福音を告げ知らせ、病気をいやした。

主イエスご自身は、12弟子を宣教に派遣しておられる。派遣の記事が注目に値する。この記事からは

- ① 「神の国を宣べ伝え（宣教）、病人を癒す(他者に仕える)ため」の派遣であり、弟子たちは「いたるところで福音を告げ知らせ、病気をいやした」とある。宣教と他者への奉仕、この二つは一つのこと、一体でありまた同時的な出来事としてあることが分かる。宣教の言葉の一人歩きではない。
- ② また「あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気を治す力と権能をお授けになった」ことを、主イエスが持つ不可思議な力を分けて戴いたと誤解してはならない。ただ専ら神ご自身の力によって御業が行われるように、弟子たちには「空っぽ」になる事が求められたのである。弟子は自分を空にして専ら神の宿る「器」とされることで、神に用いられる。
- ③ 3-4節は「杖・袋・パン・金銭・着替え」を持つなど。すなわち、地上的手段を用いる。地上的手段によって事がなされるとの勘違いをするな、とのことである。御業をなさるのは、神ご自身であり、神のご意志が出来事（病気の癒し）をなさる。弟子たちは

神のご意志によって用いられる器 (=神殿) とされている。

従って、教会の自己拡大 (人数増加など)・組織制度運営上の安定を求めて行われる地上の営みは、神のご意志を表す宣教ではなく、人間の願望に基づく行為である。

- ④ 5 節の「足についた埃を払い落としなさい」とは、どこにでも蔓延する地上の原理に擦り寄らず、ただ専ら神の原理によって歩め、というメッセージである。決して仲たがいや排除の勧めではない。

主イエスの 12 弟子の派遣において示される宣教は、次のようである。

- ・「言葉 (宣教) と行為 (他者の必要に仕える行動)」は一つのものである。言葉が行為となり行為が言葉であり、二つは一つである。
- ・宣教は専ら神の御業である。人はその御業に仕え用いられるために、己を「器」とすることである。
- ・己を「器=神殿」とするためには、神殿を「商売の家」(ヨハネ 2:16) としないことである。

では、主イエスご自身の御活動はどうであったか。

●主イエスご自身の宣教 (マルコ 1:14~15) 新共同訳 p61

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と言われた。

では、主イエスご自身の宣教はどうか。主イエスの言葉と行動は福音書に記されるが、それを総括的に表した言葉がある。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」である (マルコ 1:15)。

「神の国が近づいた (すでにここにある)」、つまり「神のご支配は迫り、既にここにある」ということが、主イエスの宣教内容である。それに続く言葉は、「悔い改めて、福音を信じなさい」であるが、ここに言う「福音」とは、すなわち「神のご支配は迫り、既にここにある」という福音を信じなさい」と語っておられるのである。

もう一つ、主イエスの宣教を総括的に伝える言葉は「**そのときから、イエスは、『悔い改めよ。天の国は近づいた』と言って、宣べ伝え始められた**」(マタイ 4:17) p5 である。

マタイ福音書においても、宣教の内容は「天国=神の国=神のご支配が近づいた」である。

主イエスにおいて、宣教とは、「神のご支配」を宣べ伝えることであり、宣べ伝えるとは「神のご支配を生きる姿をもって体現する」ことである。

今日の我々が、「福音を信じなさい」との主イエスご自身の言葉に、「イエスの十字架による贖いを信じなさい」等、そこに、後の教会の十字架理解を読み込んだり、「イエスを信じれば救われて天国に行けるのだ」等と自分の願望を投射することは避けたいのである。

主イエスは「神のご支配」を、その全身をもって表わされたのである。

それ故に、12 弟子の派遣に際しても、主イエスご自身が父から賜る「病気を癒す力と権能」を弟子たちにお与えになって、神のご支配が今ここにあることを、弟子をしてお示しになるのである。これは、父なる神と一つであることによって父より賜る、神の御業と権能で

ある。

弟子たちはもっぱら、己を器とすること、神殿とすることが求められたのである。

●宣教は「命令」か、聖霊の御業に与ることか

聖霊の御業によって用いられる。

ところで、再びマタイ福音書 28 章に立ち戻るが、復活の主イエスが天に挙げられる前に「命じておいたことをすべて守るように教えなさい」と語られた、命令として記されている。

使徒言行録の記事では、復活の主が弟子たちに現れ、宣教について語り、天に挙げられるが、主は何と語っておられるのか。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒 1:8) p213 である。これは命令ではない。

宣教は命令であるのか。宣教は、主の証人として生きることへの、聖霊の御業による招き・導きであり、私どもの歩みを整えてくださる「主の約束」である。

「主の証人」として生きることへの招きは、正に主イエスと同じ生き方へと召されることである。己を思わず、常に他者に仕えて歩むことで、父なる神の御心への従順を生きる。この行動が、宣教の言葉である。その主人公は神ご自身。わたしどもは、器として用いられるために、地上の理屈や、地上の都合、**地上の目的、自分を捨てて、聖霊の御業の内に、神の出来事に用いられる幸いである。**

私どもは、聖霊の御働きのもとに調べられ用いられることに信頼し、聖霊を真剣に熱心に祈り求めたい。「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」(ルカ 11:13)。

主イエスは、最後の晩餐において弟子たちに語っておられる(ヨハネ 14:10~11)。

「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もし、それを信じないなら、業そのものによって信じなさい。」

この主イエスの在り方が、宣教の究極的姿である。宣教は、父なる神と主イエスと一つとされて生きること、そのものであるから。

続いて「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしの行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとに行くからである」(14:12)と語られ、その根拠として、聖霊を送るとの約束をなさってください。宣教は実に幸いに満ちている。神ご自身のお働きに与る経験の積み重ねである。

札幌豊平教会の社会的取り組みは、「宣教目的」ではない。自己目的を捨て去った無私の他者奉仕である。そこに、主イエスがお示しになる宣教「神のご支配を表す道」が備えられる。

Ⅶ. 統計 (2020 年分)

*2016年6月27日(月)に開始。毎月最後の月曜日に実施

2020年 朝ごはん一緒に食べるとなお美味しい統計						
月日(月曜) 朝		子ども	大人	路上	ボラ数	摘要
1月27日	18人(会食最後)	0	10	0	8	
2月24日	新型コロナ感染症市中感染ありとの報道によって、食堂閉鎖。弁当に切替え	0	5	16	4	
3月30日		0	6	19	4	
4月27日	ボラ感染防護のために休止					
5月25日		0	10	15	4	
6月29日		0	17	13	7	開始丸4年
7月27日		0	12	13	6	外国人初来訪
8月31日		0	22	1	6	
9月28日		0	15	12	6	
10月26日		0	13	16	6	
11月30日		0	18	16	6	
12月28日		0	6	17	5	
2020年合計			134	13 8	62	

*2017年4月7日(金)に開始。毎週金曜日に実施(昼ごはん)

2020年 とよひら食堂 統計							
月日(金曜)	総食数	豊平教会	路上	札バプ テスト	聖公会 札幌キリス ト	ボラ数	摘要
1月3日	51	26	15			10	9月11日までボラ人数
1月10日	58	33	15			10	とボラ食数は同じ
1月17日	59	30	13			16	
1月24日	56	34	13			9	
1月31日	53	30	13			10	

1月合計	277	153	69			55	
2月7日	48	24	14			10	
2月14日	59	29	15			15	
2月21日	57	33	15			9	
		教会前	路上			ボラ数	
2月28日	弁当 59	弁当 33	弁当 16			弁当 10	弁当に切替え
2月合計	223	119	60			44	
3月6日	49	25	16			8	
3月13日	47	25	16			6	
3月20日	60	34	18			8	
3月27日	59	36	16			7	
3月合計	215	120	66			29	
4月3日	55	34	16			5	
4月10日	61	40	16			5	
4月17日	58	37	16			5	
4月24日	61	38	16			7	
4月合計	235	149	64			22	
5月1日	37	35	休			2	ボラ感染予防、路上休み
5月8日	59	39	16			4	
5月15日	61	41	15			5	
5月22日	58	39	15			4	
5月29日	62	43	15			4	
5月合計	277	197	61			19	
6月5日	60	40	15			5	
6月12日	61	40	15			6	
6月19日	54	37	12			5	
6月26日	61	43	11			7	
6月合計	236	160	53			23	
7月3日	62	40	12			10	
7月10日	74	51	13	札幌バプ テスト↓		10	留学生初来会
7月17日	89	45	13	22		9	札幌バプ拠点開始
7月24日	85	49	13	15		8	
7月合計	310	185	51	37		37	

8月7日	84	45	13	18		8	
8月14日	64	41	0	16		7	
8月21日	80	40	12	17		11	
8月28日	66	39	1	17		9	
8月合計	294	165	26	68		35	ここまで264人(264食)
9月4日	62	35	2	16		9	
9月11日	73	46	3	16		8	ここまで281人(281食)
9月18日	75	39	9	22		9(5食)	
9月25日	80	46	12	20		11(2食)	
9月合計	290	166	26	74		37(24食)	ここまで301人(288食)
10月2日	85	35	12	29		10(9食)	
10月9日	110	43	15	27	聖公会札幌20	8(5食)	聖公会拠点開始
10月16日	110	34	15	32	23	14(6食)	
10月23日	117	44	13	27	25	12(8食)	
10月30日	105	35	12	27	25	10(6食)	
10月合計	527	191	67	142	93	54(34食)	
11月6日	110	29	10	30	30	11(11食)	
11月13日	120	38	14	30	30	14(8食)	
11月20日	117	42	15	30	30	13	
11月27日	134	40	16	40	38	8	
11月合計	481	149	55	130	128	46(19食)	
12月4日	120	36	16	36	30	10(2食)	
12月11日	123	41	16	36	30	10	
12月18日	120	34	16	40	30	10	
12月25日	154	50	17	45	30	13(12食)	
12月合計	517食	161	65	157	120	43(14食)	
2020年合計	3,882食	1,915	663	608	341	444人(355食)	
	総食数	教会前	路上	札幌パプ	聖公会札幌	ボラ数	摘要
2019年合計		食堂1,540	694			578人	
2018年合計		食堂1,370	673			5	

2021年5月時点では、150～160食を作り、手渡しします。増えています。